

花まつり

北米開教監督部

長谷川智行

四月は「花まつり」、つまり仏教の開祖であるお釈迦様の誕生を祝う法要が勤められる月です。花まつりは仏教の開祖の誕生を祝う法要として、数多くの国の様々な宗派においても共通してお勤めされている法要です。この花まつりにおいて最も象徴的な行事が、花御堂と呼ばれる美しい花で飾られた小さな御堂を設置し、その中心に立つている、生まれたばかりのお釈迦様の像に甘茶をかける行事です。この行事は「灌仏（かんぶつ）」と呼ばれております。この灌仏とは、お釈迦

様がお生まれになった時の様々な伝承をもとにしております。伝承によれば、今から2500年ほど前のインドにあつた釈迦族の王国に王子が生まれます。この王子が後にお釈迦様となります。この部族の王の夫人が産のために故郷へ帰る途中、ルンビニという花園に休憩を取るために立ち寄ります。その時、夫人がある樹の枝を掴んだときに、右脇から男の子が生まれたと伝えられています。やがては仏になるであろう、その男の子の誕生を天地のありとあらゆる命が喜び、天からは花が降り、地からも花が

咲きました。また、誕生仏に産湯を使わせるために、竜が甘露の雨を降り注いだと言われます。その男の子は生まれてすぐに自分の足で立ち上がり、七歩前へ歩いて、右手で天を指し、左手で地を指して、「天上天下唯我独尊」と言ったと言われています。

これが、大乘仏教において伝統的に伝えられてきているお釈迦様の誕生に関する物語です。これは物語とはいえ、仏教の教えの要素が象徴的に表されている物語なのです。例えば、男の子が生まれてすぐに「七歩前へ歩いた」と言われますが、これは苦しみの「六道」を超える、という意味を表しています。六道とは、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天として表現される苦しみのあり方です。私達が自ら作り出す、怒りや貪り、愚痴、憎しみ、戦い、傲慢さなどにとらわれている様を

表していると言えるでしょう。こうした苦を自ら作り出しながらも、出離の道を見出すこともままならないのが私達の姿であると言われます。しかしながら、人生がたまたま思い通りになつていない時などは特に、自分自身のこうしたあり方を自覚することもまた容易ならざることでもあります。さらに、私達の心には自我に対する「執着」があります。苦の原因である自我を手放すどころか、むしろ執着してしまう、これが私達の現実ではないでしょうか。

『歎異抄』にはこのように説かれています。「久遠劫よりいままで流転せる苦悩の旧里はすてがたく、いまだむまれざる安養の浄土はこひしからずさふらふこと、まことに、よくよく煩惱の興盛にさふらふにこそ。」しかし、これらの六つのあるり方の中で、自分自身を顧みることのできるあ

り方が一つあります。それが「人」、つまり人間というあり方です。男の子が七歩前へ歩いた、という逸話には、私達が「人」として、六道を超え、真の生き方に目覚めてほしい、という仏の願いが反映されているのです。また、天地の美しい花や竜の甘露の雨とは、やがてあらゆる衆生を苦の六道から救う教えを説くであろう人物の誕生に際しての衆生の喜びと、私達自身の真実に目覚めたいという深い願いを象徴的に表したものです。そして、男の子の「天上天下唯我独尊」という宣言は、私達の誰もが代わることのできない尊さを有しているということを表しています。つまり、仏とそして私達の深い願いが、このお釈迦様の誕生の伝承物語に込められているのです。

この伝承を形にしたものが、花まつりの花御堂や灌仏です。花御堂を

飾る花は天上天下の花であり、誕生仏にかけける甘茶は、お釈迦様の産湯である甘露の雨です。この灌仏という儀式は、私達が自らのあり方を振り返り、仏の深い願いに目覚め、そして衆生としての願いに目覚めるということを、その意義として持つていくのです。

お釈迦様の誕生といえ

ば、もう一つ、仏陀としての誕生の物語が思い起こされます。その男の子は釈迦族の王子となり、ゴータマ・シッダールタと名付けられます。そしてゴータマ王子が二十九歳になった時に、真実を求めて、国も財産も地位、つまり快樂の道を棄て、ただ一人の修行者として道を求めて旅に出ます。その旅の道中で、様々な先生の教えを受け、厳しい修行に明け暮れる日々を過ごします。しかし約六年後、ゴータマはその厳しい修行の道をも棄て、ある木の根元に座って瞑想に入りま

す。夜の暗闇が朝日によって徐々に破られるように、ゴータマは縁起の理法として伝えられる真理を覚ります。しかし、ゴータマは真理を覚ったとはいえ、その自らの覚りの内容を人々に伝えることを非常に躊躇したと伝えられています。その真理とはあまりにも深く、絶妙であり、様々な貪りや怒り、無知に執着する多くの一般の衆生に教え

たところで、まず理解してはもらえないだろう、だから、この覚りは自分だけのものにしておこうというように、布教を断念しかけたと言われています。もしゴータマがそのまま覚りを自分の中にしまったままであつたら、その覚りが救いの道として、仏教としてこの世に顕われ出ることもなく、歴史上数多くの人々の心を潤すこともなく、誰に知られることもなく消えていったことでしょう。

う。夜空の星の瞬きのように、はかない輝きとなつていたことでしょう。また、そのようにして真理を覚ったと自分で宣言しても、自分の胸にしま

うだけで満足しただけの人が、当時数多くいたと言われています。

しかし、仏教の伝承によれば、ここで「梵天勸請」と言われる大変重要な出来事がありました。古代インドの神様である梵天が天の世界から、ゴータマがその覚りを人々に伝えることをあきらめる様子を見て、地上世界へ現れて、ゴータマに対してその覚った真理をもつて世の迷える多くの人々を苦しみから解放くれるように、何度も強くお願いしたとのこと

です。その請いを受け、一切の衆生を救わんとゴータマはついに立ち上がり

ます。いわば高い真理の世界から日々の暮らしを営む民衆のなかへ帰つてい

かれ、法をお説きになつたのです。ここに真理が仏教としてこの世に顕

われ出で、民衆の上に具体的に生きて働く力となりました。ここで梵天として表現されているのは、生きとし生けるもの、衆生の心の最も奥深くから発せられる願いの象徴、表現であります。

つまり、命の奥底から真に救われる道を求めてやまない衆生の願いに応えるかたちでゴータマが法を説く決心をされた、ということ

です。

こうしたお釈迦様の伝承物語は、私達の心がいかに煩惱にまみれてい

ようと、仏の智慧は絶えず私達を真実の生き方に目覚めさせようとはた

らき続けていて、また、私達も真実を求める深い

願いを持つていることを思い起こさせてくれるの

です。自分の力をもつてしては苦を取り除くこと

はかないませんが、聞法を通し、自らの身を深く

顧みることを通して、他

行事予定

五月

四日 五月祥月法要
十一日 母の日家族礼拝・母の日朝食
十七日 南加セミナー
十八日 誕生会・初参り法要

二十五日 日曜礼拝

六月

一日 六月祥月法要
八日 日曜礼拝・話し合い
十五日 父の日家族礼拝・父の日昼食
二十二日 日曜礼拝
二十九日 日曜礼拝・ルンビニ卒園式

最近の行事

別院ゴルフ大会

二〇二五年三月十日（月）、第二十三回東本願寺ゴルフトーナメントが新しい会場となったキヤンドルウッド・カントリークラブで開催され、早朝から多くのボランティアが集まりました。約百十五名のゴルフアーの到着に備え、トラックからの荷降ろし作業が行われる中、コーヒーが淹れられ、受付には参加記念品、ドーナツ、スパムむすび、フルーツがずらりと並びました。外では明るく元気なボランティアたちがゴルフアーの受付を担当しました。

三月上旬にしては天気にも恵まれ、朝は冷え込みましたが、日中は暖かくなりました。コース内すべてのホールにはティースサインが掲げられ、ティースポンサーによるご協賛のおかげで、青少年プ

ログラムやお寺の維持費用のための資金が集まりました。ご協賛いただいた皆さまにこの場をお借りして御礼もうしあげます。

全ホールを回った後、ゴルフアーたちは温かいBBQランチを楽しみにバンケットルームへ向かいました。会場にはラッフル用のご門徒さまや様々な企業からのご寄付や豪華な景品で溢れていました。ゴルフアーたちが食事と談笑を楽しむ中、司会の伊東信氏がトーナメントの勝者と抽選会の当選者を発表しました。

ニアピン賞は、水谷ハッピーさん（十番ホール）と南村アキラさん（三番ホール）、直線賞は光内ブレントさん（十一番ホール）でした。ローグロス優勝は大下ケイシーさん。バーデイー賞は、押田ケイシーさん（五番、十五番ホール）、吉田ライアンさ

ん（九番ホール）、加藤ジムさん（十二番ホール）に贈られました。レディーヌ優勝は野々山ヒロヨさんでした。総合のスコアは、第三位堀尾トッドさん、第二位長尾ウェインさん、そして第一位ウィリアム・ジェラルドさんでした。おめでとうございます！

東本願寺ゴルフトーナメントは、ボランティアの皆さんのご協力、そしてティースポンサーやドナーの皆さんの支援のおかげで、毎年着実に発展を遂げています。皆様のご協力、ご参加にこの場をお借りして衷心より御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。



春季彼岸会・セミナー

レスリー・ウォン

去る三月十六日(日)

に本年の春季彼岸会がお勤めされ、また同日午後にはセミナーが開催されました。元洗心寺駐在開教使の小谷正雄師より、法要とセミナーの両方においてご講話いただきました。

ワッツで育った日系三世の小谷先生は、一般的に抱かれる仏教の僧侶像とは一見異なるかもしれませんが、ご自身のこれまでの歩みや僧侶になるまでの経緯を語ってくださいの中で、アメリカの浄土真宗コミュニティにおいて、今なお個性的で自由な精神を持ちながら活躍されていることがよく伝わってきました。

カリフォルニア大学サンタバーバラ校で学士号を取得された後、龍谷大学へ留学され、その後は世界各地を旅しながら様々な経験を積みまし

た。そうした経験を経て、ロサンゼルスへ戻られた後、洗心寺にて開教使としての歩みを始められました。

四十五年にわたる現役生活を経て退職された現在、小谷先生は、アメリカのようなキリスト教社会において、浄土真宗をどのように理解し、受け止めていくのかというテーマで、私たちのサンガにお話くださる機会を喜んでお引き受けくださいました。

日本とアメリカでのご自身の経験をもとに、小谷先生は、アメリカにおいて仏教徒であることの難しさの一つは、キリスト教が支配的な文化の中で育った日系アメリカ人は、日本の仏教徒とは異なる視点で物事を捉える習慣が根付いている点だと述べられました。

アメリカ文化は、個人主義や自立心を重視する

一方で、日本文化は集団や協調性を大切にします。言い換えれば、日本文化の中で育った人々は、仏教の核的な教えを受け入れるための土台をすでに持っているとも言えるのです。浄土真宗では、仏教とは「自己中心的な自分」を発見することだと教えられます。小谷先生は、アメリカ文化がこのような内省的な自己理解を妨げてしまう傾向があることを指摘されました。

さらに先生は、アメリカにおいて仏教が知的には受け入れられていても、宗教としてはキリスト教徒にとってなかなか受け入れられにくい現実があると述べられました。その理由の一つは、「神」と「一切世界」に

対する根本的な考え方の違いにあります。キリスト教では、「神が一切世界を創造した」と教えられますが、仏教において阿弥陀仏は「一切世界そ

のものの」であるため、「創造された存在」とは考えられません。このような真逆とも言える考え方は、多くの人にとって戸惑いを与えるものであり、会場の参加者の中にもその考えに不安そうな表情を浮かべる方が見受けられました。

このセミナーを通して、私は「自分自身を仏教徒としてどう見るか」という新たな視点を得ることができました。たとえアメリカの文化によって無意識にキリスト教的な思考に影響を受けていたとしても、私は仏教の教えを受け入れ、さまざまな先生方から学び続けていきたいと感じました。



同朋のお悔み

今中義雄ウエイン様

一月二十九日 御命終
行年八十六歳

桑原 貞雄様

二月十三日 御命終
行年八十九歳

福元貞雄ケント様

二月二十日 御命終
行年八十九歳

リウ・ラン様

四月三日 御命終
行年九十九歳

謹んで哀悼の意を表します。



行事のお知らせ

母の日家族礼拝

五月十一日(日) 午前
十時より、母の日家族礼
拝をお勤め致します。
ゲストスピーカーより母
の日にちなんだお話をい
たきます。また、礼拝
前にはソーシャルホール
にて午前八時三〇分から
九時四十五分まで母の日
をお祝いする朝食も振る
舞われます。どうぞご家
族そろってご参拝くださ
い。



親鸞聖人誕生会 初参り法要

五月十八日(日) 午前
十時より親鸞聖人誕生会
法要をお勤めいたします。
す。誕生会は一七三年
に京都近郊でお生まれに



なつた親鸞聖人のご誕生
をお祝いする法要で、特
別な法話もございます。
また、同日誕生会に加
え、新しいお子様のご誕
生と初めてのお参りをお
祝いするための初参り法
要も勤まります。初参り
は伝統的に新生児を対象
におこなわれますが、当
別院では六歳までのすべ
てのお子様を対象と致し
ます。お子様の参加をご
希望の方は、お子様の氏
名と年齢を明記の上、寺
務所までお問い合わせく
ださい。二〇二五年の会
費をお支払いいただいた
メンバーのお子様は五十
ドル、メンバーではない
方のお子様は七十五ドル
の手数料がかかります。
対面でお参りが叶わない
方々のため、フェイスブ
ックにて同時配信も行い
ます。どうぞお誘い合わ
せの上、ご参拝下さい。

父の日・卒業 家族礼拝

六月十五日(日) 午前
十時より父の日・卒業家
族礼拝をお勤め致しま
す。父の日と今年ご卒業
を迎えられる皆様のお祝
いを通してお勤めされる
法要です。お父様の皆
様、ご卒業の皆様、そし
てご家族をはじめ、有縁
の皆様は是非ご参拝下さ
いますよう、ご案内申し
上げます。

二〇二五年 お盆祭り

開催日 二〇二五年七月二十六日(土)
二十七日(日)
両日午後一時開場

場所 東本願寺ロサンゼルス別院

